

1917年～

農民代表第一回全ロシア大会

1917年五月四～二十八日（五月十七日～六月十日）にペトログラードでひらかれた。大会には、県および軍隊から1,115名の代議員が出席した。ボリシェヴィキは大会の活動に積極的に参加し、臨時政府の帝国主義的政策と、メンシェヴィキとエス・エルの協調主義を暴露した。しかしエス・エルの力が強かったので、大会の決議もすべてエス・エルのなものになった。大会は臨時政府の政策と「社会主義者」の入閣を是認し、「勝利による結論」まで戦争を続行すること、戦線で攻勢に出ることに賛意を表明した。大会はまた、地主の土地をただちに農民に引きわたすことに反対し、土地問題の解決を憲法制定議会まで延ばそうとした。

第25巻 事項訳注 P536

労働者・兵士代表ソヴェト第一回全ロシア大会

1917年六月三～二十四日（六月十六～七月七日）にペトログラードでひらかれた。大会には千人以上の代表が出席した。ボリシェヴィキはそのころは少数派であって、105名の代表しかもっていなかった。多数派はエス・エルとメンシェヴィキであった。大会の議題にはつぎの問題がのぼった。——臨時政府にたいする態度について、戦争について、憲法制定議会の準備について、その他。レーニンは、臨時政府にたいする態度についてと、戦争について演説した。ボリシェヴィキはすべての基本的な問題で自分たちの決議案を出した。彼らは、戦争の帝国主義的性格を暴露し、ブルジョアジーとの協調政策が破滅をもたらすことをしめし、全権力をソヴェトへうつすことを要求した。しかし大会はもろもろの決定のなかで、臨時政府を支持する立場に立ち、臨時政府が準備していた戦線での攻勢を是認して権力をソヴェトへうつすことに反対を表明した。

第25巻 事項訳注 P535

『プラウダ』（『真理』）

ボリシェヴィキの合法的日刊新聞。1912年四月二十二日（五月五日）に創刊された。

創刊以来たえず警察から追及され、前後八回停止処分を受けたが、そのつど新しい名称で復刊された。しかし1914年七月八（二十一）日について禁止された。1917年の二月革命後に復刊され、三月五（十八）日からは、ロシア社会民主労働党の中央機関紙として発行されるようになった。七月事件で本紙は禁止されたが、その後臨時政府の追及を受けながらも、『小型版「プラウダ」』、『プロレタリアー』、『ラボーチー』、『ラボーチー・プーチ』と名称を変えて、発行されつづけた。十月二十七日（十一月九日）から、ふたたび『プラウダ』という名称で発行されている。現在『プラウダ』はソヴェト同盟共産党中央委員会の機関紙である。

第25巻 P538 事項訳注

6月18日（7月1日）のデモンストレーション等

①ボリシェヴィキ党の中央委員会は1917年6月10（23）日にデモンストレーションを行う予定であったが、ソヴェト第一回全ロシア大会はこれを禁止する決定を採択した。このデモンストレーションは、全国家権力をソヴェトの手につくことを要求していたペトログラードの労働者と兵士の意志を、ソヴェト大会につきつけるはずであった。メンシェヴィキとエス・エルはこのデモンストレーションに反対をとなえ、ソヴェト大会の6月9（22）日の会議でデモンストレーションを禁止する決定を通過させた。ボリシェヴィキ党の中央委員会はソヴェト大会の決定に服し、デモンストレーションを取りやめ、ソヴェト大会自体がデモンストレーションの日に予定した6月18日（7月1日）に延期することにした。メンシェヴィキとエス・エルは6月18日（7月1日）のデモンストレーションを反ボリシェヴィキ的スローガンのもとに行おうと予期していた。しかしその日になると、約五〇万のペトログラードの労働者と兵士がデモンストレーションに参加し、その圧倒的多数はボリシェヴィキ党のスローガンをかかげてすすんだ。臨時政府を信頼せよというスローガンをかかげたのはほんの少数のグループにすぎなかった。このデモンストレーションは、大衆の革命精神の高まりとボリシェヴィキ党の影響力と権威の著しい増大とをしめしていた。と同時に、首都における小ブルジョア的な協調主義的諸政党の完全な破産と臨時政府の権威の失墜をしめした。

②1917年6月7（20）日に臨時政府は、無政府主義者たちに元ツァーリ政府の大臣ドゥルノヴォの別荘から退去することを命じた。この命令は、実際には、別荘の大部分を占拠していた赤衛隊や労働団体に向けられたものであった。ペトログラードの労働者はこのことに抗議し、一連の工場でストライキを行ったので、臨時政府はやむなく譲歩した。しかし6月19日（7月2日）の夜に、臨時政府は武装したカザックと兵士の一隊を派遣して、別荘を破壊させた。この襲撃は、ペトログラードの労働者の憤激をひきおこした。

第25巻 P540-541 事項訳注

全ロシア労働組合会議

1917年6月21～28日（7月4～11日）にペトログラードでひらかれた。会議には211人が出席したが、そのうちボリシェヴィキは73人で、その他はメンシェヴィキ、エス・エル、ブンド派、無所属であった。議題は、労働組合運動の任務について、労働組合の建設について、経済闘争について、その他であった。すべての重要問題について、ボリシェヴィキは自分たちの決議案を出すか修正案を出すかした。会議は10～12票の少数の差で、祖国防衛派メンシェヴィキの提案した諸決議を可決した。会議は臨時労働組合中央評議会を選出した。

第25巻 P543 事項訳注

七月事件

1917年のいわゆる七月事件のこと。7月3(16)日に、ペトログラードのヴィボルグ区で、臨時政府に反対するデモンストレーションが自然発生的におこった。まず第一機関銃隊が行動をはじめ、これに他の部隊や工場労働者が合流した。デモンストレーションは終日つづき、臨時政府にたいする軍事的行動になりかねないほどに成長した。

ボリシェヴィキ党は、革命的危機はまだ熟せず、軍隊と地方が首都の蜂起を支持する心構えができていないと考えたので、この時機には武装行動に反対でもあった。7月3(16)日午後四時に党ペトログラード委員会および軍事部と合同して召集された中央委員会の会議では、行動にでることを阻止することが決定された。このときにひらかれたボリシェヴィキ第二回ペトログラード全市協議会も同様の決定を行った。この会議の代議員たちは、大衆に行動を思いとどまらせるために各工場や各区に派遣された。それにもかかわらず行動ははじまり、それをおしとどめることはもはや不可能に見えた。

大衆の気分を考慮した中央委員会は、ペトログラード委員会および軍事部とともに、同日の夜おそく、デモンストレーションを平和的、かつ組織的なものにするためにこれに参加することに決定した。レーニンは当時ペトログラードにいなかったが、事件の報知を受けたので翌4(17)日の朝ペトログラードにきた。この日のデモンストレーションには五〇万人以上が参加した。それは、「全権力をソヴェトへ！」というボリシェヴィキのスローガンをかかげてすすんだ。

平和的に行進していた労働者と兵士にむかって、士官学校生徒と将校の部隊がとびかかった。そうすることは、メンシェヴィキ=エス・エルの執行委員会にあらかじめ知らせて諒解を得ていた。部隊は示威運動者に銃火をあびせた。また、革命を潰滅させるために戦線から反革命的部隊が呼びもどされていた。

党中央委員会は、7月4(17)日にデモンストレーションを中止する決定を採択した。その夜おそく、レーニンは、『プラウダ』のつぎの号を校閲するために編集局にやってきた。彼が編集局を去ってから半時間たったときに、編集局は士官学校生徒とカザック兵の一隊によって破壊された。メンシェヴィキとエス・エルは事実上残酷な反革命的所業の参加者であり、援助者であった。彼らはデモンストレーションを潰滅させたあと、ブルジョアジーといっしょにボリシェヴィキ党に襲いかかった。ボリシェヴィキの諸新聞『プラウダ』、『ソルダーツカヤ・プラウダ』その他は臨時政府によって禁止された。大々的な逮捕、搜索、ポグロムがはじまった。ペトログラード守備隊の革命的部分は、首都から戦線へまわされた。

七月事件ののち、国の全権力は完全に臨時政府の手にうつった。ソヴェトは臨時政府の無力な付属物にすぎないものとなった。二重権力の状態は終りをつげた。革命の平和的な時期はおわった。こうしてボリシェヴィキのまえには、臨時政府を打倒するために武装蜂起の準備をするという課題がおきてきた。

第 25 卷 P544~545 事項訳注

ロシア社会民主労働党第六回大会

1917年7月26日から8月3日(8月8日から16日)までペトログラードでひらかれた。大会は非合法にもよおされた。レーニンは、スヴェルドロフ、モロトフ、オルジョニキーゼ、スターリンを通じて、地下から大会を指導した。大会には、二四万の党員を代表して、議決権をもつ代議員157名と、評議権をもつ代議員128名が出席した。

議事日程はつぎの諸問題であった。(一)組織ビューロー報告、(二)中央委員会報告、(三)地方報告、(四)現情勢、「イ」戦争と国際情勢、「ロ」政治および経済情勢、(五)綱領の改訂、(六)組織問題、(七)憲法制定議会の選挙、(八)インタナショナル、(九)党の統一、(十)労働組合運動、(十一)選挙、(十二)雑。このほかに、大会ではレーニンの出頭の問題が審議された。

大会は党の経済政綱を採択し、新しい党規約を確認した。レーニンの出頭の問題は、オルジョニキーゼの報告にもとづいて、出頭すべきではないという決定がなされた。大会のすべての決定は、プロレタリアートと貧農の武装蜂起準備、社会主義革命のための闘争という方向をとっていた。大会は宣言を発し、労働者、兵士、農民に、力を貯え、ポリシェヴィキ党の旗のもとにブルジョアジーとの決定的な格闘の準備をするように呼びかけた。中央委員には、レーニン、スヴェルドロフ、ジェルジンスキー、シャウミャン、スターリン、アルチョム(セルゲーエフ)その他がえらばれた。 第25巻 P549~550 事項訳注